

安全データシート

1. 化学品および会社情報

製品名	ゲルクリーナーペン
会社名	(株)エクシール
住所	岐阜県美濃市大矢田277-1
担当部署	品質保証課
電話番号	0575-33-0872
緊急連絡先	同上
FAX番号	0575-35-1590
整理番号	190001
推奨用途・使用上の制限	異物を採取する粘着ペンとしての用途

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性 該当しない

健康に対する有害性 該当しない

環境に対する有害性 該当しない

GHSラベル要素 分類基準に該当しない

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物(成形品)

部材	成分	官報公示 整理番号	CAS No.	含有量(wt%)
ペン先部	ポリウレタン	非開示	非開示	66
	可塑剤	非開示	非開示	17
	その他添加剤	非開示	非開示	-
軸部	ABS	6-176	9003-56-9	≥75
	ポリエーテル エステルアミド	非開示	非開示	≤25
	添加剤	非開示	非開示	<6

※含有量は代表値であり規格値ではありません。

4. 応急措置

目に入った場合	目をこすらずに清浄な流水で15分以上洗眼し、医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	皮膚に異常を感じた場合には流水で洗い流す。 溶融樹脂が付着した場合、石鹼で洗浄し、流水で洗い流す。 医師の手当てを受ける。
吸入した場合	溶融樹脂から発生したガスを吸入した場合、空気の新鮮な場所へ移動させる。回復しない場合には医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	多量の水を飲ませてから吐き出させ、医師の手当てを受ける。 被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

消火剤
消化方法

泡消火剤、粉末消火剤、霧状水、乾燥砂
安全に消化できる場合には燃料源を除去する。
初期火災には消火器を用いる。
火災が広がった場合は大量の噴霧水により冷却する。
未着火のドラム、設備、建物に放水し延焼、過熱を防止する。
保護具、空気呼吸器を着用し消火作業を行う。
不完全燃焼時には有害なガス(一酸化炭素等)を発生するため、
ガスの滞留しない風上から消火活動を行う。

6. 漏出時の措置

人体への影響
環境に対する注意事項
回収方法

人体への影響は無いものと考えられる。
水域へ漏出させないように注意する。
飛散流出したものは掃除機やほうき等で集め、破棄方法を参考に
破棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意事項
保管上の注意事項

荷崩れ防止や落下防止等一般的な製品取扱い上の注意をする。
静電気を起こす場合があるので注意する。
直射日光、高温多湿を避け、換気の良い室内冷暗所で保管する。

8. 暴露防止措置及び保護措置

管理濃度
許容濃度

設定なし
日本産業衛生学会 設定なし
ACGIH 設定なし

設備対策
保護具

局所排気装置
保護眼鏡、保護手袋、保護長靴、状況に応じ防毒マスクを
使用する。

9. 物理的及び化学的性質

形状
色
融点
引火点
発火点
比重
溶解度

固体
透明(ゲル部)
ペン先部 データなし
軸部 130~150℃
ペン先部 データなし
軸部 データなし
ペン先部 データなし
軸部 405℃
ペン先部 1.08
軸部 1.02~1.08
水に不溶

10. 安定性及び反応性

安定性
避けるべき条件
有害分解生成物

通常の保管及び取り扱いにおいて安定
直射日光、火気、高温多湿
燃焼により二酸化炭素、一酸化炭素を生成

11. 有害性情報

急性毒性
皮膚腐食性/刺激性
目に対する重篤な損傷性
眼刺激性

資料なし
資料なし
資料なし
資料なし

呼吸器感作性	資料なし
皮膚感作性	資料なし
生殖細胞変異原性	資料なし
発がん性	資料なし
生殖毒性	資料なし
特定標的臓器毒性(単回暴露)	資料なし
特定標的臓器毒性(反復暴露)	資料なし
吸引性呼吸器有害性	資料なし

12. 環境影響情報

生態毒性	資料なし
残留性・分解性	資料なし
生体蓄積性	資料なし
土壌中の移動性	資料なし
オゾン層有害性	資料なし

13. 廃棄上の注意

廃掃法および地方自治体の条例に準拠し焼却または埋め立てにより廃棄する。
詳細については産業廃棄物処理認定業者に相談する。

14. 輸送上の注意

国連分類	該当しない
輸送上の安全対策	転倒、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を行う。 汚れ、水漏れに注意する。重量物を上積みしない。

15. 適用法令

消防法	指定可燃物
廃棄法	産業廃棄物、廃プラスチック類

16. その他

SDSに記載の内容は、SDS作成時点で入手できる資料、情報、データに基づいておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。また、「成形品」に分類される製品のSDSの場合、お問い合わせの多い製品について、弊社が自主的に作成し、公開するものです。

実際の取扱についてはSDSを参考の上、用途、用法に適した安全対策をおすすめします。

また、必要に応じて試験を行った後、取り扱うことをお勧めいたします。

SDSの内容は、新しい知見や記載に漏れ等があった場合、予告なく変更することがあります。